

⑦令和元年東日本台風阿武隈川水系・鳴瀬川水系緊急復旧工事

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 河川部、国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所
 国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所、国土交通省 東北地方整備局 宮城南部復興事務所
 国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

キーワード 地域の建設業協会と連携、24時間施工、権限代行

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和元年東日本台風により阿武隈川水系・鳴瀬川水系において被災した堤防等の緊急復旧工事。権限代行も含めて40箇所^{ひっぼ}に及ぶ工事であったが、地元建設業と一丸となって24時間施工を実施し、概ね2週間で完成させており、早期の地域の安全性向上に大きく寄与している点が評価された。

1. はじめに

令和元年10月12日、令和元年東日本台風（台風19号）の影響により東北地方では広い範囲で非常に激しい降雨となり、宮城県丸森町筆甫^{ひっぼ}で累加雨量が600mmに達するなど記録的な大雨となった。この大雨により鳴瀬川水系及び阿武隈川水系では19観測所で既往最高水位を記録し、内6観測所では計画高水位を超過した。これにより東北では宮城県、福島県を中心に死者54名、行方不明者2名、住宅浸水約16,000戸など甚大な被害に見舞われた。

2. 事業の概要

令和元年東日本台風では、東北地方整備局管内の直轄管理河川において、越水により阿武隈川水系阿武隈川及び鳴瀬川水系吉田川の堤防が決壊し浸水被害が発生したほか、その他の箇所でも堤防の一部流出が発生し全6箇所において緊急復旧工事が必要となった。また、同月23日に宮城県から、更に同月25日に福島県からの要請を受け、権限代行により県管理の11河川24箇所の堤防決壊箇所についても国が緊急復旧工事を実施した。

実施においては、整備局職員を総動員し現場監督体制を構築するとともに、地域の建設業協会と連携し24時間施工を行ったほか、不足する備蓄資材についても



直轄鳴瀬川水系吉田川 緊急復旧完了

ロック協会を通じて緊急手配する等、業界一丸となった対応により着手から概ね2週間で緊急復旧工事を完了させたものである。



24時間体制による施工（阿武隈川内川 宮城県権限代行）

3. 事業の成果

本災害では東北初となる「河川法第16条の4第1項」の規定に基づく権限代理工事として国が県区間の緊急復旧工事を行ったことで、県は二級河川などの応急復旧に専念することができ、両県全域の早期安全度向上に寄与した。

また、本制度は近年制度化されたものであり、全国的にも適用事例が少なく、対応に苦慮したことから本災害の実践を通じて国・県の役割分担や手続きの流れを体系的に整理するとともに準備資料や記者発表内容の事例を冊子としてとりまとめた。

4. おわりに

令和元年東日本台風において緊急復旧工事を実施した阿武隈川及び吉田川については、今次降雨規模の洪水に対する再度災害防止を図るため、同年度に「大規模災害関連事業」が採択され、現在治水対策を進めているところである。

また、権限代行による緊急復旧を実施した宮城県の内川流域においては「災害復旧助成事業」が採択され、引き続き権限代行として国が施工を行うこととなり、東北地方整備局では令和2年4月に宮城県丸森町内に新たに宮城南部復興事務所を設置し、地域の一日も早い復旧・復興に向け注力しているところである。

賛助会員 (株)橋本店、(株)武山興業、会津土建(株)、仙建工業(株)、熱海建設(株)、(株)佐藤工務店、(株)深松組、丸か建設(株)、菅基建設(株)、(株)只野組